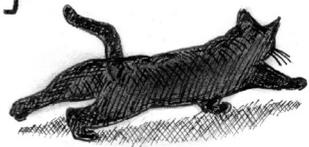




今井恭子



え 入村定子

ミノ虫のミノンさんは、おしゃれに目がないことで有名でした。おしゃれのためなら、どんな犠牲でも喜んではらう覚悟でしたから、たった一つしかない命さえ、投げ出しそうな勢いでした。背中には「おしゃれ、命」と、いれずみを掘ったほどです。あ、タトゥーと呼ばないと、ミノンさんにしかられません。書くときはTattooです。横文字の方が、ずっとすてきに見えますからね。

ミノ虫の袋は、ふつうは枯れ葉や枯れ枝の切れはしで作ります。とてもじょうぶで、ちよつとやさつとでは破けません。けれど、見かけはちつともよくありません。

見栄っ張りのミノンさんは、そんなありきたりの袋なんかじゃ、がまんできません。ついこのあいだまで着ていたのは、ほどよい太さの、青々としたマツの葉だけを集めて

作った袋でした。すがすがしい香りと、シツクな緑色の縦じまに包まれていると、しゃれた気分でした。つい、しゃなり、しゃなり、袋を揺らしたので、ヒヨドリに見つかり、すんでのとろでつつかれそうになったものです。

今はイチヨウの葉っぱをまとっています。色あざやかな黄色は、目立ちたがり屋のミノンさんのお気に入りですが、はでな色ほどあきがくるのも早いものです。

そろそろ真っ赤なモミジに着がえようかしら？

先週、ミノンさんは高級衣装店へ、のそのそ、はっぴいきまりました。

「ピンクのバラをドライフラワーにした《素材》がごさいます。とてもぜいたくな袋がお作りいただけだと思います。少しお高いですが、いかがでしょう」